感染状況と医療提供体制の状況について

資料１－３

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

１　大阪府の感染状況

（１）感染状況

○　**７日間新規陽性者数は、**大型連休後にやや増加したが、**５月14日以降、前週同曜日を下回った状態が継続。**
ただし、**陽性者数は依然、１日3,000人を上回る高水準で発生。**

○　陽性率はやや減少傾向にあるが、**依然、20%弱と高水準で推移しており、市中に感染がまん延している状態。**

○　府の直近１週間の変異株スクリーニング検査では、**BA.2系統疑いの検出が約97%であり、ほぼBA.2に置き換わったものと考えられる。**

○　**クラスター発生状況では、高齢者施設関連（施設数・陽性者数）が依然、４割前後を占めている。**

○　**3回目接種の割合は、全年齢で約5割。65歳以上で8割を超える一方、若年層では約3割。**
60代以上の陽性者のうち、ワクチン３回接種済は４割強であり、**ワクチン接種後も感染予防対策の徹底が必要。**
ワクチン３回目未接種者に比べ、**３回目接種済の重症者・死亡者の割合が低いことから、３回目の追加接種の効果が伺える。**

（２）入院・療養状況等

○　**病床（重症病床・軽症中等症病床）使用率は、２割弱で推移。**

○　**直近１週間の入院調整時の入院患者の年代割合は、70代以上が全体の約７割**を占めており、**症状としては、中等症Ⅱ以上が全体の２割強**を占める。

○　**軽症中等症病床における長期入院患者の割合は**、３月下旬をピークに減少したものの、**現在は再び増加傾向**（13.2%　5/12時点）にあり、
第六波における70代以上の入院患者の平均入院日数は、第五波より長い。
転退院サポートセンターで転院調整を行った患者のうち、ADLの低下が見られた患者が84.1%、嚥下の低下が見られた患者が55.6%、認知症が見られた患者が49.7%を占める。
軽症中等症患者については、退院済調整中の割合が約５割と高く、その背景に上記患者が多いことが考えられる。
重症患者については、人工呼吸器管理が不可欠であることなどから、療養継続を必要とする患者が多い。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

○ 直近では、新規陽性者数は明らかな増加傾向にはないが、**１日あたり新規陽性者数は依然、第五波のピークを上回る3,000人超過した状態が続いており、感染は十分に抑制されていない。**
病床使用率は20%弱で推移しており、５月９日以降、大阪モデルに基づく「警戒解除（緑色信号点灯）」の目安を満たした状態にある。
ただし、新規陽性者数が大きく減少しない限り、病床使用率は減少傾向に転じないものと考えられ、現在の感染規模や病床使用率を踏まえると、**感染が拡大に転じれば医療提供体制がひっ迫し始めるものと考えられる。**

⇒ 以上のことから、今後も引き続き、**オミクロン株の特性を踏まえ、基本的感染予防対策の実施やマスク会食の徹底、感染リスクの高い場所・場面の回避などの取組みの継続が必要である。**

⇒ 府としては、第六波の感染・療養状況を踏まえ、令和４年３月22日に策定した「第七波に向けた保健所業務の重点化・医療療養体制の強化方針と取組」に掲げる取組みに加え、**第六波を上回る感染拡大を見据え、オミクロン株の特性を踏まえた「オール医療」の体制構築をすすめる。**
【「オール医療」の体制構築に向けた取組み】
①診療・検査医療機関の充実（５月10日「検査体制整備計画【改訂第３版】策定済）
②急増が見込まれる自宅療養者への治療体制の充実（取組済）
③病床確保等医療提供体制の整備
④要介護高齢者の入院・療養体制の更なる整備や高齢者施設等における医療支援の更なる強化